



応用科学キャンパスをNew York Cityへ

北陸銀行 国際部
 ニューヨーク駐在員事務所
 内間 洋子

2010年、前ニューヨーク市長ブルンバーグ氏は、応用科学に関する大学院の研究開発（R&D）部門を市所有の土地へ誘致するため、「応用科学キャンパス ニューヨークシティ」と銘打つコンペティションを開催しました。

コンペティションには、世界屈指の27の大学院から18の案が寄せられ、コーネル大学とイスラエル工科大学の共同案が採用されました。昨年、マンハッタンの東のイースト川に浮かぶ小さな島、ルーズベルトアイランドに、建設費用2,000億円をかけたキャンパスと、600人の生徒・教授陣が暮らすアパートビルが完成し、MBA、コンピューターサイエンス、インフォメーションエンジニアリング、ヘルステクノロジーなどの修士課程の授業及びビッグデータを応用し起業を目指す生徒のためのソフトウェア開発をサポートする博士課程が始動しているとのことです。ルーズベルトアイランドには、美しい桜並木があり、ガラス張りのキャンパスからのマンハッタンの眺めも素晴らしく、最高の環境といえます。コーネル大学のホームページにはEarthcamによる建設現場のライブ映像もアップされており、注目を集めています。コーネル大学は、ニューヨーク市と99年間の土地借用契約を結び、建設にあたって市より100億円の資金援助を受けているそうです。



【コーネルテックキャンパス(全景)：事務所撮影】

現在も、世界各国からの客員研究者やシンポジウム参加者が滞在するためのホテルや、アメリカ通信最大手のベライゾン・コミュニケーションズが運営する教育センタービルが建設途中で、2037年にこれらの全てのビルが完成すると、15,000坪の総合施設となる予定です。

ブルンバーグ前市長は、「大学は、才能ある人材を引き付け、その最も優れた人材を求め大学周辺に世界の一流企業が集まる。一流大学のR&D部門の誘致は、ニューヨーク市の経済に多様性と競争力をもたらし、長期的な雇用と人口増加を生み出すエコノミックゲームチェンジャーとなる」と述べています。市は今後35年間で、6,000億円の経済効果を見込んでいます。

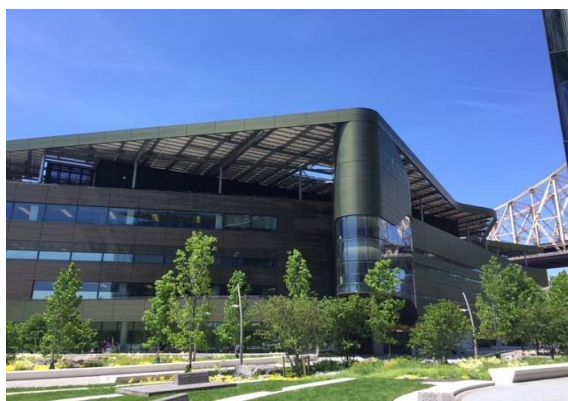


【Tata Innovation Center：事務所撮影】

Tata Innovation Centerは、民間企業や産業と大学のアカデミックな研究を結び付け橋渡すために開設された施設です。

大学院の事業計画には、地元の幼稚園から高校までの生徒達への大学院施設内での教育プログラムの提供、マイノリティーや女性の経営する地元企業との優先的な取引契約なども盛り込まれているそうです。

ニューヨーク市長室によると、中国などアジアの新興国における応用科学研究開発への投資金額は、この5年以内にアメリカ国内の投資金額を上回ると予想されています。市はそれに対抗し、「ニューヨークを21世紀の応用科学研究開発における世界のリーダー都市にする」と意気込んでおり、今後も新たなコンペティションを開催し、誘致に務めたいとのことでした。



【Bloomberg Center : 事務所撮影】

Bloomberg Centerは、太陽光発電、地熱ヒートポンプ、4万ガロンの雨水タンク、チルドビーム・システム等が配備され、ビルの運営に必要な電力を自家発電でも賄えるようになっています。

以上

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

ほくりく長城会

海外ビジネス情報

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局

〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F

((株)人材情報センター内)

TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565

E-mail: info@chojo-hokugin.jp